

591 演説(我校風)

〔『法学新報』第30卷5(341)号 大正9年5月1日〕

演説

○我校風

茲に掲ぐる一篇は中央大学学長岡野博士が去月十六日始業式に臨み新入学生を迎ふるの辞として述へられたる演説の要旨なり若し夫れ其標題に至りては記者か恣に附したる所其当らざるの罪は記者の責に帰すべく切に博士の諒恕を請ふ(記者識)

法学博士 岡野敬次郎

諸君、我中央大学新学年の初に当り諸君と一堂に会して諸君の活氣潑瀾たる風姿に接しまするは私の最も欣幸とする所であります私も亦旧時を追想すれば紅顔の美少年には非ざりしも赭面の醜青年でありました去りながら今や少年青年壮年の三期を經過して既に老年時代に進みました此の苦境に在りて既往を顧みれば長き三十有余年の歴史は唯惜しき過去なりしと長太息するの外はありませぬ而して時代は推移し、時勢は変遷し、思想は変化したる今日に於て青年の学生諸君に対して此講壇に立て繰言を述べましても或は「彼は古い」、「彼は時に遅れたり」、「彼は現代の思想を解せず」と言下に斥けらるるの虞はないとは思ひませぬ乍併斯の如き虞あるに拘らず敢て陳套の言説を弄しま

するは陳套の言説自ら一面の真理を含めるものありと信ずるからであります仍て大に勇を鼓して聊數言を費やさんと欲するのであります

先以て申述べたきは『質実剛健』は我中央大学創立以来の方針でありまして三十有余年を経て少も渝はることはないものであります創立者の本学を興したるは此方針に由り爾後の継承者も亦常に此趣旨を体して毫も失墜することなく歴代の学長増島博士、菊池博士、岡村博士、奥田博士何れも同一方針を以て本学経営に当られました不省私敢て揣らす其後を承け学長の任を叨にしましたが一に先輩諸氏の遺策を遵行しまして只及ばざらんを是恐るるのであります質実、真摯、純朴、簡素は本学の学风として同人の窃に世に誇る所であります時流を趁ふことなく浮華を学ぶことなく物質的の裝飾や施設を以て外面を糊塗するの陋に習ふことではないのであります私此本学の方針か夙に世の認諒する所であると信ずるのであります諸君は此精神に共鳴され此学风を慕て本学に來り学ばるのであります私本学の為大に歓迎せざるを得ぬのであります近時經濟界の著しく膨脹して所謂好景氣なるに伴ひまして華美奢侈の弊習都鄙の別なく上下に瀾蔓し勤儉の美風將に地を払はんとするの状勢でありますまして学籍に在るの徒も此厭ふべき悪風に感染して動もすれば暴富の擧に倣ひて虚榮虚飾に憧憬するに至りましては真に唾棄すべきの事例であると思ひます学資を父兄に仰ぎ専門の學術を修め業を卒へて社会に出で定職を得て却て学生時代の安樂生活を顧みて之を羨む者往往にして之有るは憐むべく悲むべきの極

であります私は敢て現代の青年諸君に向て蓬頭垢面、破帽弊袴、煨芋を食ひ煎豆を嚙で切齒振腕宇内の形勢を論ずべしと云ふが如き時代錯誤の説を唱ふるものではありませんが不健全なる弊風は断乎として之を斥け世の風潮に超出するの覚悟がなければならぬと信ずるのであります更に剛健の精神に至ては終始一貫之か維持に務めねばならぬこと論ずるまでもなし因循姑息にして右するが如く左するが如く白でもなく黒でもなく常に鼠色の態度を執り他の鼻息を窺ひて左顧右眄独立独行の勇氣なきは是れ先人の蔽に誠むる所であります国家の将来を双肩に荷ふの責任ある青年諸君は宜く深く鑑みるべきであります

次に人格品性の修養に付て一言致しますが今日の社会を通觀しますれば機智才幹の大に優れたる者少くはありませぬ又学殖識見の高邁にして世の畏敬を享くる人士も多くあります之に由りて能く世に処し功を収め声名を馳する者其実例に乏しくありませぬが高尚なる人格、高潔なる品性を備へ一世の尊敬信賴を受くる者果して幾人ありませうか之を鑽れば弥堅く之を仰げば弥高しと云ふが如き崇高なる人格者は寥寥として晨星の如しとも申しませうか苟も高等教育を受くる者にして滔滔として名聞利達に趨くこと蟻の羶きに群るが如くにして操守なく其節を二三にして靦として恥ぢざるに至らば国家社会の前途真に寒心に堪ざる次第であります私は人格を修め品性を鍊るは実に学生の重大なる本務であると思ひます諸君は他日業就りて社会の各方面に活動せらるるや人の命に聴き人の願使に甘ずべきに非ざるは論なく人を統率し人を使用するの地位を占むるの覚悟を有せ

らるべし人を用ゐ各其才能を發揚せしめんと欲せば人をして帰服せしめねばならぬ而して人の帰服を得るは人格者に於て始めて能くすべきことであります

尚修学の点に關して一二諸君の御考慮を促したいと思ひます先づ歐洲の大戦乱は思想界の大変化、大混乱を来し稱して新なる思想とか新なる主義とか新なる学説とか云ふもの決河の勢を以て澎湃として我邦に襲来し真に迎接に遑あらざるの状勢であります「デモクラシー」、「労働問題」、「サボターヂユ」皆近年世に喧伝する現象であります最近普通選挙論が一部の人士に依りて唱へらるるや学徒も亦其宣伝に参加して運動、示威運動に狂奔したるは不幸にして掩ふべからざる事実であります私は学生諸君に対して政治問題、社会問題に接触すべからずと云ふが如き僻見を有するのでありませぬが学生として学籍に身を措くの間は所謂修学時代に在るが故に専ら學術の研鑽に従事するが其責務であると思ひます修学を閉却し面白半分に運動に加はりて力と時とを徒費するは学生たるの本分を忘れたるものと断言して憚らぬのであります若し余暇あり余力ありて新思潮に触るるは敢て妨はありませぬが短き三年の専門教育余暇を得るは容易ならず余力ありとも猝に信じ難しと思ひますが余暇あり余力ありとするも先以て新思想、新主義、新学説と稱するものの本体本質如何は勿論果して我国体、我社会組織、我国民性と能く両立するや否や、健全なる主義なるや否や、危険なる思想なるや否やを十分に省察せねばならぬ徒に新奇なる思想の輸入移植を事とする輕佻浮薄者流の言説に惑はされ民主主義とか社会主義と

か共產主義とか無政府主義とか其名称に誑されて忘動するが如きは最も戒心すべきことであります近時又改造なる新流行語を見聞しますが私は其の文辭の真意義を能く了解しませぬが若し社会組織の根本的改革の謂にして遽に之を実現せんとするに在るなれば是れ改造には非ずして現代の社会制度を破壊するものであると信ずるのであります之に就ては大に論究すべきことはありますが今は他日の機会に譲ること致します

次に極めて卑近なる事例を申し上げますが学年の初に当りましては学生諸君講堂に溢れ少く刻に遅れて来る者座するに席なく或は室の四隅に、或は壁に沿て佇立せらるるは私の目撃する所でありまして其熱心なる歎服の外ありませぬ然るに一月を経、二月を過ぐると聴講者は次第に其数を減し時に半にも及ばざるが如きは稀有の事ではありませぬ法律と云ひ経済と云ひ始めて其講義を聴くや如何なる講師が如何なる態度を以て如何なることを説くかと唯好奇心に駆られ云はば冷かし半分に講堂に出入するが為めなれば斯の如きは学ぶの志なき者にして寧ろ初より学ばざるに如かずと思ひます若し然らずして講説の趣旨を解し之を會得するの難きか故に自然怠り勝に心の進まざるが為めなれば是れ思はざるの甚しきものであります凡そ学科の何たるを問はず始より終まで体統あり脈路あり一(絡)の原則は他の原則を産み諸種の原則互に相聯繫するが故に能く順序を追ふて其解説を聴き研修を積み始めて徹底せる理解を得るものであります其理解を得て始めて学問の興味を感じるに至るのであります尚一言申添へて置きますが何事に依らず其本体を究めんと欲せば正面よ

り、側面より、又左右上下より能く仔細に観察せねばならぬものであります今一科を講ずるや講師は一定の考案に基き秩序を立て終始一種の見解を貫きて講述するが故に学生諸君一に其講述する所のみ拘はるときは縦令反覆叮嚀読誦するも畢竟一面を観察し得るに止まると思ひます四方八面より観察を遂けて始めて事物の本体を明にすることを得るのでありますから要は広く参考書を涉獵して大に自ら研修することを要するのであります講師の説く所は手ほどきであつて自修が即ち学ぶ所以であります自修を積むに非ざれば活問題に当りて己の学識を活用することは到底出来ないであります(拍手)